

平成27年度 第4回江田島市公共交通協議会（平成28年1月19日）

協議会議事要点録

協議会議事要点録				
会議名	平成27年度 第4回江田島市公共交通協議会			
日時	平成28年1月19日（火）13時15分～15時05分			
場所	江田島市役所2階会議室			
傍聴者	2名			
出席者	県立広島大学	名誉教授	のほら けんいち 野原 建一	○
	広島商船高等専門学校	教授	おかやま まさと 岡山 正人	×
	江田島バス株式会社	代表取締役	はすだ つとむ 蓮田 勉	○
	江田島バス株式会社	従業員代表	すぎい くみお 杉井 公美雄	○
	広島県旅客船協会	会長	にった いちろう 仁田 一郎	○
	瀬戸内シーライン株式会社	船員代表	たにぐち みのる 谷口 実	×
	広島県タクシー協会江能支部	支部長	いまみや こうじ 今宮 浩二	○
	江田島市自治会連合会	会長	はまなか しげみ 濱中 繁美	○
	江田島市老人クラブ連合会	会長	ふるもと さねき 古本 眞機	○
	江田島市社会福祉協議会	会長	なかむら ひろまさ 中村 博政	○
	江田島市女性会連合会	会長	しもだ とよこ 下田 豊子	○
	江田島市観光協会	会長	いとう ふみお 伊藤 富美雄	○
	中国運輸局海事振興部旅客課	課長	ひらお よしひろ 平尾 嘉宏	○
	中国運輸局広島運輸支局	首席運輸企画専門官	ひらが てつじ 平賀 哲二	代理出席 櫻井 康彬
	広島県地域政策局地域力創造課	課長	きむら ひろし 木村 洋	代理出席 藤田 順子
	江田島警察署	地域交通課長	こにし まさき 小西 正記	○
	江田島市	副市長	どて さんせい 土手 三生	○
江田島市	企画部長	しまづ しんじ 島津 慎二	○	
江田島市	土木建築部長	きむら なりひろ 木村 成弘	○	

1 開 会	
事 務 局	開会宣言
2 会長あいさつ	
会 長	会長あいさつ
3 議 題	
協議事項① 江田島市地域公共交通網形成計画（素案）について（資料1）	
事務局	－資料1により説明－
議 長	ただいま江田島市地域公共交通網形成計画（素案）につきまして説明していただきました。この内容につきまして、皆さんからの忌憚のないご意見、ページ数は問いませんので、お気づきの点から、ご意見いただければと思います。よろしくお願いたします。いかがでしょうか。
委 員	32 ページに「わかりやすい公共交通情報の提供」というのがありますが、その中に「わかりにくいバス停の名称変更」というのがあって、バス利用者からも言われているのですが、江田島町中央に青木病院があるんですね。その前に停留所があって、その停留所の名前が「山田」になっているんです。それで利用者が、青木病院に通院するのに、バスに乗って行って、「次、山田です」と言われた時に、ちょっとやっぱり「青木病院前」という名前に変更してもらえないかという要望が出ておりますので、そこら辺りをご検討願います。
議 長	大変具体的なお意見がございました。事務局、いかがでございましょうか。
事務局	ありがとうございます。今いただいたようなご意見もございませし、実際にはない施設のまますバス停の名前だけが残っているものも聞いています。具体的に、どのように変えるのかということについては、事業者さんと調整しながら、実態に沿った分かりやすいバス停になるように一緒に考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。
議 長	もし何かお気づきの点がありましたら、「こういう名前はよくないんじゃないか」とか、「こういう名前にした方がいいんじゃないか」というようなご指摘がありましたら、どうぞ遠慮なく申し上げていただきますよう、お願いたします。
委 員	利用者が分かるような名前にしてください。
議 長	はい、分かりわかりました。利用者に分かりやすいような名称でご検討願いたいということですので、全てのバス停につきまして、検討をお願いしたいと思います。 他に何かございませんでしょうか。
委 員	ただいまのご質問の件でちょっと。今、委員さんが言われましたように、例えば、この近くでは「安芸簡保」のバス停。この施設は存在しないんですけども、停留所名は「安芸簡保前」となっている。また、山田の術校寄りの方に行きますと、「電報電話局」という実際にはなくなっている施設ですけども、いまだにそのまま名前を使っております。各自治会長さんから、会合に参加したときに

<p>委員 (つづき)</p>	<p>そういったご意見がありまして、そういったことはある程度認識はしているんですけども、すぐには変わらないのが実態でございます。といいますのは、次の名前は何にするのかということ、先程のご意見のように、「青木病院」というような形になりますと、人の見方によっては固有名詞であることから「なぜ、あそこだけ宣伝するのか」となりかねない。それから、バスの案内機器類が、「次はどこどこです」という車内放送をするんですが、パソコンですぐ変えられればいいのですが、市内全部を既に打ち込んでおまして、専門業者に依頼して直すということになると経費の問題があります。そのようなことがあって、名称については、今非常に苦慮しておまして、「では、しないのか？」ということになりそうですが、「しません」とは言いませんが、「すぐします」というには、非常に多くの課題があるということもご理解いただきながら、お知恵を拝借したいと思っています。とりあえず、バス停の名前についてです。</p> <p>続いて、私からの質問です。この計画、事前にいただいておりますが、内容がたくさんありまして、非常に分かりにくいような、もうちょっとシンプルにならないのかという感じが、個人的にはしております。言葉の世界のことになりかねないんですが、「公共交通網形成計画」ということになると、今から作るようなイメージが若干するんですが、今でも交通網はあるんです、実際に。良いか悪いかは別としまして。ですから、「交通網向上」にするか、完成に近づけるための計画であって、この名前ではなく、中身の問題なんですが、題名のことについて、1点言わせていただきます。</p> <p>それから、計画では、現状、目標という展開になっているんですが、確かに物事を解決するには、現状把握がしっかりとできてないと次のステップに進めない。最後のところでPDCAサイクルを回していくということでもありますので、現状把握、それから課題が出てくるんですが、この課題をしっかりと分析するというか解析するというか、そのステップを踏んで目標設定をやるんですが、この計画で、私が一番分かりにくかったのが、目標設定が言葉遣いとしてはここにもありますけれども、「見直し」とか、目標の次が「見直し」で、目標2では「向上」とか、そんな言葉を使っている。目標設定は、後ろのページにも出てきますが、指標という表現であるんですが、数字で置いて、それを目指していくという設定でないと。計画で「見直し」たり、「向上を目指す」という表現では、定まりにくいと思う。ですから、数字で置きかえていくというやり方がいいかと思います。体重70キロを60キロにする。そのためにはどうする。だから、70キロの体重の現状分析をしっかりとっていくというような進め方でないと、結局最後に何をやったのかということになってしまう。私は、計画がたくさんあり過ぎて、もうちょっとシンプルに問題点は何かということで、目標は数字で示す。そのためには、どういうふうに段取って、いつまでにやるという形でまとめないと、なかなか結果がついてこないと思いますので、そういう形が良いと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>それでは、事務局の方で、今のご意見に対するご意見はございますか。</p> <p>バス停の名前は、ともかくとしまして、この素案につきましての基本的な考え方として、もう少しシンプルにしたほうが良いのではというご意見がございまし</p>

議 長 (つづき)	た。その辺に関しまして、何か全体的なところで事務局の方では、こう考えているというところでお話を願えればと思います。
事務局	<p>それでは最初に計画の名前の話ですけれども、この「公共交通網形成計画」というのは、法律にそのものの名前があるかどうかは定かではないんですが、全国的に、現在、法律に基づいて作っているものなので、全国共通の名前であることをご理解いただければと思います。</p> <p>それから、現状把握について、数字も掲げないと、進捗状況が分かりにくいというお話もいただきました。計画の中では、一つ一つではないですが、それぞれの目標ごとに評価指標を取り入れており、計画の29ページでいうと、一番下の部分になりますが、数値的なものを入れております。また、計画の最後のページにもありますが、最終的な総合的な評価指標として、毎年、市の方で市民満足度アンケートをやっています。その市民満足度ポイントを、60ポイントを目指していこうということで、トータル目標としての数値で掲げるようにしています。個別の一つ一つについて、もうちょっと具体的にということであれば、これから色々と協議させていただいて、具体的にではどうやっていこうかということも含めて協議させていただくこととなります。</p> <p>あと、全体的に色々と盛り込んでいるので、もう少しシンプルにならないかということですが、そもそも何でこの計画を作るのかということなんです。市民の皆さんが今後、江田島市で暮らしていくためには、公共交通というのは絶対必要になってくるものなんです。セーフティーネットとしての公共交通というのは、欠かせないものだと思っております。それを絶対守っていくことに当たって、何が一番必要かといったら、やっぱり乗ってもらわなければ保てないということです。乗ってもらうためにはどうすれば良いかといったら、満足度が高いものであったり、使いやすいものであって、それが揃って始めて乗ってもらえるんだと考えております。その考えの基に、この施策の体系を考えたところなんです。満足度が高いとか、使いやすい公共交通であるためには、現状でも色々な声を皆さんもお聴きになっていると思いますけれども、こうしたことが必要じゃないかというようなことで、施策のほうを色々と盛り込んでいるのが実態です。実際、個別の施策になると色々なことが書いてあるんですが、簡単に言えば、この目標の1から5までであるように、海上交通と陸上交通の連携強化とか、もっと使いやすいダイヤの見直しとか、あとは公共交通結節点で乗り換えに迷ったり、分からないとか、うまくいかないとかいうようなことがないようにしようとか。あとは乗る時の運賃の割高感が、少しでも和らぐようにしようとか。それから、市民の方だけではなく、外の方にも乗ってもらって、公共交通の持続のための一員として参加してもらおうじゃないかと。また、目標としては、地域の皆さんに「公共交通は大事だよ。我々本当に必要だよ」というような意識を作っていこう。簡単に言ったら、この5つの柱に沿って、こういうことが出来るんじゃないかというような事業を組み込んでいます。個別の事業でいうとたくさんあって、分かりにくいとは思いますが、考え方としては、この5本柱で出来ることに取り組んでいこうという内容になっています。</p>

議 長	どうぞ。
委 員	<p>今のご説明では、五つの柱の形になっていると。この計画書の中は、例えば1章と5章は、いわゆる説明文的部分というか、2章と4章は現状把握的部分になっている。3章は、過去の資料をまとめただけで、今までに何回も見た資料が載っているという感じになっている。6章は、具体的な事業が形になっているので、五つある中の一つになろうかと思いますが。例えば陸上と海上が連携出来ていないというような状況について、市民から非常に多くの意見があったら、これは連携が出来ていないという一つの結果に対して、では何故出来ていないかという現状の把握とか、あるいはそういう解析をしていって、原因をとにかく突き詰めていったら、どうすればいいのかということにつながってくる。展開は、仕方・あり方なんですよ。原因がしっかり掴めないのに、対策は打てないわけですから。そこの展開のあり方が、今はモヤッとして全部が入り込んでから、どれをターゲットにして、どう解決をしようとしているのかが、見えにくく感じられる。大きく五つなら五つでちゃんと絞って、展開のあり方で解決していくというような。それを共通的に一つの計画書で表せないかなということなんですけれども。ですから、現状把握には色々なツールがあって、資料にも棒線グラフとか円グラフのようなものがたくさん出てくるんですけれども、確かに現状把握ということで、表現はしているんですけれども、次につながる資料じゃない。交通網を形成するに当たって、テーマをある程度限定したもので、同じパターンで攻めていかないと非常に解決が難しいんじゃないかなと。全部共通的にこの計画書という形、それは精神論の問題であって、それは「やる気がありますか」と言ったら、「あります」といって表明すればいいだけのことであります。恐らくどういうふうに解決するのかということになれば、計画のテーマを絞ったやり方のほうがいいんじゃないかということです。</p>
議 長	<p>ただいまのご指摘の点のことを事務局も検討の素材にさせていただければというふうに思います。よろしく願いいたします。</p> <p>それから、利用者の方でもご意見があらうかと思いますが、何かご意見はございませんでしょうか。</p>
委 員	<p>今日、私はこの会議をととても期待してまいりました。前回おれんじ号などの色々な話があったりして、もっと具体的な計画が出されて、次に向かって行くんだらうと期待して参りました。先程の委員さんが言われたのとほぼ同感で、この膨大な資料をご説明いただいたんですけれども、やはりこういう網羅的なものは一つは必要だと思うんですが、次の会議は3月18日の予定で、この会議で決めていくということで、その間にはパブリックコメントをする予定だという計画があります。具体的に、例えばおれんじ号ならおれんじ号、それから、観光関係では、パンフレットのようなものを作って、それを合わせて進めていくんだということもありましたけれども、そのようなことを、どこで話し合っ、どのように作られていくんだらうかなという気持ちがいたしております。今日、地域の方に「今日、公共交通の会議がある」という話をしましたら、その方は民生委員さんなんですけれども、「おれんじ号はできたのは、私たち民生委員が何回も何回</p>

<p>委員 (つづき)</p>	<p>も市のほうにかけ合って、自分で買い物に行けない人がいるから、作ってくれと要望して出来た」というふうに言っておられました。それが事実かどうかは分からないんですけども、そのようにお聴きして、ああ、そうなんだというふうに聴いたんですけども。ところが、そのおれんじ号は、主要幹線のような大きい道路だけを通るので、高田の宗崎の方では、斜面の上から下まで下りていく時間とか、歩くことが難しくて不便な人がいて、その方は息子さんが毎週1回小包で必要最低限のトイレトペーパーや食べ物なんかを送ってもらって生活しているんだと言われたんですね。連日、おれんじ号を利用される方というのは、本当に地域で1人、2人、3人かもしれないんですけども、そういう方々が現実におられるので、そういう方々を今度具体的に拾って行って、どの道を通っていったらどういう方が乗るんだろうかというようなことまで調べての運営といたしますか、そういうことが出来て、市民の満足度がアップするんじゃないかと思いません。</p> <p>パブリックコメントを聞くんだとか、アンケートを取りますと。そして、満足度をアップさせますというふうにありますけれども、パブリックコメントを聞くことで、一体どれだけの回答が返ってくるのだろうかと疑問を感じます。本当の声を集めることができるのだろうか、アンケートだけでそういう本当に具体的なところが出来ていくんだろうかなということを思います。本当に具体的なところを作っていくとしたら、各自治会の集まりとかで、自治会長さんを中心として、各役員さんがおられるんだから、そういう会議に行って「どうですかね、ここの地域でどこを通ったらいいですかね」というような具体的な声を実際に聴くことで具体的な方向が出てくるのではないかと思います。パブリックコメントを私も書かせてもらったことがあるんですよ。他の役員さんは、誰一人回答しなかったんですね。結果的には。「あの分厚い資料を、どうやってまとめていいかも分からないし、そんな時間ないわ」というふうに言われて。今回このパブリックコメントの実施期間を見たら、1月26日から2月16日の予定だと。とても期間が短い。どれだけのパブリックコメントの回答が出るんだろうと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>それでは続けて、利用者側の意見を聞きましょうか。 いかがでございましょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>私は、個人的には自分の車を持っておりまして、バスに乗ったことはないんです。けれども、もう少しすれば、運転免許を返すことになると思いますので、こういう委員になって、やっぱり考えていかなければならないということで、今、自分で初めて勉強しているところでございます。皆さんがおっしゃったように、これだけの資料を見ても、あまり分からないんですよ。先程も言われたように、シンプルにもうちょっと分かり易いようにしてもらえたらと思っております。これから勉強したいと思っております。</p>
<p>議長</p>	<p>先程の委員さんからは、ダイヤの見直しだけではなくて、路線コースの見直しもやっていただいた方が良いのではなからうかというご意見もございました。 いずれにしても、様々なご意見があろうかと思えます。 他の委員さん、いかがでございましょうか。</p>

委員

以前、自治会長をしておりました。現在の自治会長さんともずっと一緒にやっておりました。江田島バスが設立された12～13年前頃でしょうか、その頃に出た話が、現在のこの計画にも載っているというのが、今説明を受けた実感です。呉市営がやっておられた頃は、確かに船とバスのダイヤに若干のズレがありました。江田島バスになった時に、当時の市長さんが言われたのは、「市が、公共交通をやるのが第一であって、手直しはおいおい時間をいただいて直していく」ということで、私は試乗会にも乗せてもらいました。その時は、とにかく江田島市が公共交通を運営するというのが一番の目標だったものですから、あとは手直しするというので、十何年来ております。それで随分努力されておまして、先程の路線の問題、停留所の問題、それらはすべて呉市営から引き継いだままをやったわけですから、バス停の名称等は随分変わっておりました。

今現在を見ますと、ここに記載はされていますが、現実的に、船とバスの時間の差が悪くてバスを利用しないという人は少ないんです。朝の通勤とかで使う便は、もちろんセットされております。今、バスを乗っていている方は、自分の車がない、それから乗せていただく息子、嫁さんの車がないということです。そういう方の不満が地域にはたくさんあるわけです。ですから、それをどうするかというのが、私はバスの一番の問題だと思うんです。

それで、船の方は、随分皆さん努力されて、もちろん地域で運賃が高いとか、安いとかという問題はありますが、私の地域では、今困っているということはありません。むしろバスが、行きたい所、イズミに行きたいけど、病院へ行きたいけど、手段がないんだという方をどうするかということが、地域では一番大きな問題でございます。実際に地域で、中町棧橋から回って中央まで帰っている。週に2回、社協から帰る際に、大君経由でバスを利用させてもらっているんです。9時40分ごろのバスで、中町棧橋発の小用行きです。これに乗って、船から降りて乗る人は1人もいません。中町棧橋発で1人か2人ぐらい、9時台の船で来られて、その方が乗車して大柿の方へ行くとか、島内を回るという方はゼロです。私が1人目で、永田という所から乗るんですが、そこで私が1人目か2人目です。それから飛び飛びで乗っていかれて、降りるのが大柿の小古江の澤病院、あそこで2人位降りるんです。大君経由ですから、今度は、灘尾さんの所の前位で1人か2人乗って、大君で大分乗るんです。それで今度はイズミで降ります。次に、私たち2、3人が今度は青木病院の前で降りて帰ると。細かいこと言いますが、ここに記載している観光客を乗せてというようなことを、バスを使って、それを利用させようかということは、計画だけであって、現実的には、術科学校の見学者がバスに乗って、中町の方や灘尾記念館とか、あるいは津島紡績を見に行くとかということはまず考えられません。私が一番言いたいのは、この計画では、船と陸上をセットにして全部書いてありますが、むしろ、船とバスと、海上と陸上とをむしろ分けて、すっきりしたものにした方が良いのではないかな。どうしても船と結びつけようとするから、色々な問題点が出るのではないかなという気がしております。対象者を何にするかということ、特にバスの方は、観光客が乗ってくればいいが、まずそんなことは広島市内ではないのだから。江

平成27年度 第4回江田島市公共交通協議会（平成28年1月19日）

<p>委員 (つづき)</p>	<p>田島では、どういう方を公共交通でどう救うんだと。船の方は、随分努力されて、地域の方で問題を言うのを聞いておりません。</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、利用者の方々のご意見が一通り出たところで、観光の方の委員さん、何かご意見ございませんでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>観光協会とこの公共交通の関係は深い関わり合いがあるということはよく分かります。また、観光協会としても、色々な観光のパッケージ、それと28年度には、バスを利用した事業を計画をしておりますので、これから色々な協議をしながら、進めて参りたいと思っております。念願の観光客数の増加に寄与できればという思いもありますので、そういう計画を立てて、前向きに進めておりますので、皆さんご協力いただきたいと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>それでは、事務局の方で、今まで言われたことについて、ご意見か何かありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>最初に具体的な施策、「バスのルートとかはどうなるのか」というお話がありました。実際のところ、今回、計画を立てて、パブリックコメントをしていくというのは、「こういった方向性で考えていくということで、どうでしょうか」というお伺いをするのであって、実際に具体的にどのようにやっていくのかということは、来年度になりますけれども、事業者さんとも話をしながら、「こういうルートでやったらどうなんだろう」という具体的なところを検討して、交通を再編するという再編計画というのがあるんですが、そういったものを作っていくということになっております。実際に、「パブコメでそういった細かいニーズが取れるのか」というのは、おっしゃるとおりだと思っております。それで、具体的に、おれんじ号なり何なり、「どこで降りる」とか、「船の発着時刻を考えた場合に、こういうルートでこういう時間帯なんですけれども、それでも大丈夫ですか」というような話は、実際に地元の方ともお話をしながら決めないといけないと思っておりますので、その具体論については、その次の作業ということで思っただけだと思います。</p> <p>あと、「現状を考えると、バスを使っての観光は考えられない」というお話もあったと思うんですが、「船については、そんなに不満はない」というお話もいただきました。今後、市内の人口が増えていくかと思ったら、多分減っていくだろうという人口推計が出ています。そうした中で、「市内の人たちだけで、船もバスも全部守っていこう」ということになる、なかなかそれだけでやっていけるのかということになります。それよりは、外の方にも乗ってもらったほうが良いということは、ご理解いただけたと思います。実際のところ、市外から来られた方が船から降りてバスに乗ろうと思っても、全然行けない。観光にも行けないということになると、今度は、ご不満がないとおっしゃられた船にも乗ってくれなくなって、陸周りでダイレクトに自家用車で来てしまうということになり、バスだけじゃなくて、船に対しても、良くない影響を与えるんじゃないかというふうに思っております。バスを使って市内巡りというのは難しいということが実態としてある中で、ちょっと改善することによって、観光客の方が何とか市内を巡れるというようなことは出来ないかということもあって、ちょっと考えていけないかな</p>

平成27年度 第4回江田島市公共交通協議会（平成28年1月19日）

事務局 (つづき)	ということから、観光客というのも柱の一つとして入れているところです。
議 長	はい、ありがとうございます。
委 員	<p>私が言ったのは、現状、路線バスを観光客が利用するのは、皆無だろうということで、観光協会の会長さんも言われたように、それでは術校から降りた方たちを「のうみ温泉へ特別なバスが出ますよ」とか、そういうことを考えるのであれば、当然考えていただかなければいけない。今、小用発中町行のバスは、「術校から出た人が乗ることはないだろう」ということですから。それを別ルートで考えるとか、別のものを仕立てるとか、それはむしろやっていただきたい。「路線バス、公共バスを使ってやるには、現状では全然向いてないよ。現実に乗っていないよ」ということを言ったわけです。そういう計画があるなら、むしろ、それを載せていただきたいですね。バス停に、「灘尾記念館は、どこのバス停で降りたら良い」というような情報は、今の路線バスには全然ないですから。だから、「現状のまま、こういう計画をやるんだ」というのではダメだから、むしろ、「こういうことに力を入れる」ということを、基本計画の中に入れるべきじゃないかという気がします。ちょっと、言葉が足らなかったかと思います。</p>
議 長	<p>はい、分かりました。「観光と実際に生活しておられる方の路線とは違うんだ」ということで、「視点を変えてやらないといけないのではないか」ということでございました。</p> <p>それでは、他に何か。</p>
委 員	<p>色々な計画を進める際に、予算なしで進むという訳にはいかな。この計画の中にもありますように、例えば、ICカードの導入とか、バスロケーションシステムの導入とか、いろいろ言葉としてはあるんですけども、この江田島市の路線といいますか、バス、公共交通事業の中で、こういった、非常にあれば便利だろうと思いますけれども、実際に導入したら、どの位の予算がかかるのか、事例のことだけが示されていますけれども、他にも色々なことが「ああしたらいい」「こうしたらいい」と、一杯あることですが、必ず予算も同時に上げていくようにしないと。「5分したら着きますよ」とか、広電の電車みたいに「あと5分で宇品行きが来ます」とか言うと、「それは良いことなので賛成」となるので、「皆さんの税金がどの位かかるんですよ」ということも示しておかないと。「あんなにお金がかかるんなら、賛成するんじゃないかった」とか、必ず出てきますので。ICとかロケーションの部分じゃなくても、パブリックコメントをまとめるにしても、タダでは済まないから。「この計画にはどれ位の予算がかかる」というのを、私も見落としているかも分かりませんが、表現しておいた方が良いかと思います。</p>
議 長	わかりました。それでは、はい、どうぞ。
委 員	<p>この協議会が始まって、7年近くになるんじゃないかと記憶しています。海上交通では、西回り航路の再々編というのが最初からの命題だったんです。再々編をどうするのかということで、話が進んでいったんですが、「二つの港から出る高速船と三高からのフェリー、これをバラバラのものとして考えていたのでは、ど</p>

<p>委員 (つづき)</p>	<p>っちも立ち行かなくなりますよ」というのが、最初の危機感だったんです。それで再々編をどのように進めるのかということで数年間議論されて、そこで出た結論は、「フェリーと高速船をうまく配分しながら、一体の幹線として配置しながら、バスと連結を深めて、何とか生き残ろうではないか」というのが本来の目的だったんです。しかし、途中から高速船、市営の高速船の部分を民営化することで、目的が達成されたというふうに、途中で尻切れになってしまっているんです。本来は、そこから先が問題なので、これから毎年2パーセント以上ずつ利用人員が減っていくという船の方での見込みになっているんです。その中で、このままの体制が取れるわけがないんです。そうすると、工夫をしなくちゃいけない。</p> <p>今回、旅客船協会から、広島市内で行われているバスの社会実験のチラシを出させていただいたんですが、これは本当に参考になると思います。これは、広島市内で、広電さんと広島バスさん、二つのバス会社さんが「重複する路線をお互いに協力して間引こうじゃないか」と。「そのかわり、支線で新しいことをやろうじゃないか」ということなんです。広島駅から八丁堀、紙屋町の間をダブって走っていた余力を協力して減らすことによって、新しい路線が出来た。これで、府中のイオンモールと宇品港とアルパークを結ぶバスが出来るんです、今度、社会実験でやるんです。何故そんなことが出来たかという、今の重複している幹線を間引いたからなんです。極端な話をすると、例えば「フェリーと高速船、23便と16便、合わせて39便ありますが、これを例えば30便まで間引いて、そのかわり完全にバスで接続するんですよ」と。そうすれば、今まで16便しか利用できなかった人たちも30便利用できるようになる。中町・高田の人たちも23便しか利用できなかったのに、30便全部を有効便として使えるようになる。そのかわり全部バスの方と協調する。バスと船をすべて合致させるのはお金が要ります。そのお金をどこから出すのかという、例えば、幹線を間引いた余力を持っていくとか、こういうドラスティックなことを考えないと、この5年間は乗り切れないと私は思っています。</p> <p>だから、基本に戻ると、陸上交通と海上交通の連携強化とサラッと書いてありますが、それぐらいの重さのことを議題としてやらないと。小手先で、今1日数便しか合っていないですよ。それをドラスティックに変えようと思うと、大きいことを考えないといけないんじゃないかと思っています。</p> <p>それから、船の方で非常に心配しているのは、この夏、市役所が移転しますよね、それに伴って中町からのお客様が減るんじゃないかと。例えば、広島市や県庁の方が、江田島に来られる時に、大柿だったら早瀬大橋が目の前なんです。そうすると、船とバスを乗り継いでじゃなくて、車で出張になるんじゃないかと。逆に江田島から出張に行く時も、呉であつたり広島へ用事で行く時も、すぐ目の前に早瀬大橋があるわけですから、皆さん車で行かれるということが起こらないように。ぜひ市としても、県としても、運輸局としても、行き来の時には、公共交通機関を使って出張していただくような運動もお願いしたいなと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございます。</p>

平成27年度 第4回江田島市公共交通協議会（平成28年1月19日）

<p>議長 (つづき)</p>	<p>それでは、他に何かご意見ございませんでしょうか。それでは一通り皆さん方のご意見を賜りましたので、全体の取りまとめとしては、基本的には、この素案の流れの中で取りまとめたらいいのではないかなというふうに思うわけですが、細かいところはさらに皆さん方からのご意見を賜りながら詰めていくといたしまして、この素案で承認という形で進めていきたいと思いますが、いかがでございましょうか。</p> <p>それでは、全体的な流れとして、この素案のとおりで承認ということで取りまとめさせていただきます。ありがとうございました。</p> <p>それでは、さらにもう一つ議論がございまして、パブリックコメントの実施につきまして、事務局から説明したいということでございます。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>
<p>協議事項② パブリックコメントの実施について（資料2）</p>	
<p>事務局</p>	<p>－資料2により説明－</p>
<p>議長</p>	<p>このパブリックコメント、「実施期間が少し短いのではないか」というご意見が、皆さん方の中でございましたけれども、20日間にわたっておりますので、ご承認いただけますでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>この素案を配って、それで「どうですか」と聞いても、本当に答えようがない。じっくり読んで線を引いて、私も幾つか疑問があったんですけども、まだ十分見ていないんですけども。どうなんでしょうか。もっと本当に4、5枚位に短くしたもので、分かりやすく問題点を明らかにして。取り組むことも明らかにして。そういうものをもとにして、「こういう問題点があって、こう取り組もうと思うんですが、どうでしょうか」と言われたら、答えやすいと思うんですが。これをもとにして「どうですか」というのは、どうなんでしょう。何に対してどう考えるか、ということです。</p>
<p>議長</p>	<p>このままでは、非常に書きづらいのではないかと。パブリックコメントにならないのではなかろうかというご指摘でございますが、事務局、いかがでございましょう。</p>
<p>事務局</p>	<p>すみません、ちょっと説明が不足しておりました。この冊子の全ページとこれをまとめた概要版をセットにして、パブリックコメントを実施することを考えています。</p>
<p>議長</p>	<p>ということで、概要版を付けて、皆さんのご意見を求めるということでございました。いかがでございましょうか。</p> <p>委員が言われたのは、「もう少し短くしたほうが良いのではないか」ということでしょうか。素案は、ちょっと長過ぎて、概要版を付けて配布するということですが、概要版では、足りないということになるのでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>概要版というのは何ですか。</p>
<p>議長</p>	<p>ちょっと言葉足らずで説明はしていないんです。概要版でこの内容の要旨を書き記したものを添付すれば、分かり良いのではないかとということです。ただし、委員が言われたように、「ここに問題がある」とか、「この委員会の議論の中で</p>

平成27年度 第4回江田島市公共交通協議会（平成28年1月19日）

議長 (つづき)	は、ここに問題がある」というものを、そのまま入れるわけではないんですが。
委員	実は、市から前回、「パブリックコメントをください」と言われた時に、各地区の会長さんに同じような冊子が2冊配られて、「どうですか」ということがあった。それに対しては、誰も出していなくて、私は出さなきゃいけないと思って書かせてもらったんですが、みんなに聞くと、「厚くて読めなかったし、そんな時間ないわ」と言われた。それで、「5、6枚位に短くしてください」とお願いして、簡単にしたものをもう一回配り直して、会議の時に話し合ったんです。話し合ったものを書くのは大変だから、メモしたものをもとにして、グループで話し合っ て、私が書かせてもらった。主婦として生活している者にとっては、こういう冊子がバサッと送られて「読みなさい」と言われても、なかなか読みづらいし、読む時間もない。さらに意見を出すとなると大変なんですね。だから、それが可能なようにしてあげるのが、親切じゃないかと思うので、もう少し分かりやすくできないでしょうか。
議長	というご意見でございますけれども。
事務局	本日の資料1が、概要版のイメージということで、これで分かりにくい部分があれば、少し修正させていただきたいと思います。見ただけで全てが分かる概要版を作るのは難しい面がありますが、本編の全文は配らせていただくことになります。
議長	この資料1で十分であるかどうかということですが、委員さん、いかがでございますでしょうか。
委員	資料1ですか。
議長	資料1、今日配布されたものです。 これが概要版に該当するものです。
委員	資料1には、本編のページが載っています。一番大事なのは、次のページの計画の目標と事業内容というところの四角部分です。これが一番分かりやすい表ですね。「これについて、意見をください」という感じで明らかにして、「詳しく知りたければ、何ページに載っていますよ」と書いてあるので、真ん中のページをばっと出すことが分かりやすいかなと思います。
議長	それでは、はい、どうぞ。
委員	私は、事業内容の目標として、「見直し」とか「向上」という言葉遣いがあること自体がおかしいと思うんです。目標設定は、先程も言いましたように、数字で。例えば、23便の高速船のうち、中町港でバスと接続しているのは、例えば10便としましょうか。これを全部というのは難しいけれども、15にしたいとか。それが目標であって、そのためにはどうするのかということが、横に書いてあるようにやらないと。「見直し」というものは、あくまでも手段。幾ら幾らという数字で示すのが目標である。ですから、「機能を向上させます」というのは、目標ではないんです。「機能を向上する」というのは、「何に対して、幾ら向上して、何をもって評価するんですか」ということを言っているんです。ですから、

平成27年度 第4回江田島市公共交通協議会（平成28年1月19日）

委員 (つづき)	これだけの分厚い冊子にしなくても、もう少しシンプルに。先程、五つの柱という話がありましたけれども、一つ一つに接続・連携が出来ていないという結果に対して、要因として何があるのかということ、しっかり分析・解析して、原因がこうだろうということに対して手を打っていくというのが、いわゆる解決することだと思うわけです。ですから、ここで目標と書いている限りは、やはり何を狙っているのかということ、明確に書かなければ、ただ「向上します」とか「見直します」とって、「見直したらだめでした」というのも答えですので、そこのところをはっきりした方がいいんじゃないかということです。
議長	つまり、目標を数値化した方が良いと。
委員	出さなきゃいけないですよ。「見直します」と書いても、「見直したらだめでした」というのが、今までのやり方なんですから。
委員	今は、そこが出来ていないから、そこを見直そうというのが今の目的になっているんですね。
委員	だから、何故出来ていないのかということ。
委員	本年度から、具体的に「接続を半分以上にしよう」とかいう目標を作る。「分析をしながら作るということも含めて、来年からこの5年間でやるんですよ」という意味なら分からないことはないと思います。
委員	では、「目標をつくるのが目標だ」と明文化しておけばいい。
委員	P D C Aのプランを作る時に、当然、目標を見ながら作っていくわけですよ。向上すればいいのかどうか。そういうことですよ。
議長	実際にこの目標というのは、具体的な数値を出すというのは分かりやすいことではあるんですけども、それを表現するのは非常に難しいということで、文章になっているわけですけども、事務局、いかがでございましょうか。
事務局	先ほどおっしゃられた目標は、言い換えれば方向性みたいなものかもしれませんが。他の自治体の交通網形成計画をちょっと見てみていただければ分かると思うんですが、目標というのは数値じゃなくて、こういう柱立てを書いた上で、それに沿った形で具体的施策を置いて、数値の評価指標を設定するという方法をほとんどの自治体が入れています。こういった形で目標を書かさせていただいた上で、評価指標という数値の目標を書くこととしております。具体的な中身について、一つ一つの個別の事業について、どういったところを目指していくのかというあたりを、まさに具体的な施策を考えていくときにおいて、一緒に事業者さんなり、市民の皆さんと考えていきたいと思っていますところですよ。
議長	いかがでございましょう。
委員	よその自治体の成功例をご提示いただいて、江田島市も成功するように、計画書を作成していただければと思います。よそも成功しているのしょうから、よその表現なり、あるいは計画を江田島市もやっているだけのことで、実際にデマンドは、非常に成功例が少ないんですけども、やはり同じことをしていたのでは、よそと同じ結果になるのではないかと思います。もうちょっと詰め方を、なぜそうなったのかとかいうことを、詰めていただきたい。

平成27年度 第4回江田島市公共交通協議会（平成28年1月19日）

議 長	海上交通と陸上交通の関係というのは、事例はそんなに多くないですから。しかも、江田島の場合には、橋が架かっていますので、完全に離島ではございません。そういう意味では事例がそう多くないと。
委 員	ですから、そういう分析をして、「目標はこうします」と書かせて、納得してもらったり、説明したりしていかないと。これまでアンケートを取ったら、必ず「バスと船が常につながっていなければいけない」という回答が、半分以上になるんです。それは、説明が足りないから、そうなっているのであって。「本市には橋もあります。全国的に見ても、こういう事例は少なく、市や事業者が頑張っている」ということをちゃんと示さないから、希望だけ言われて、「何もやらない」、「何もやらない事業者」となってしまう。だから、説明が足りない。分析した結果をしっかりと説明することも大事だと思うんですね。
事務局	くしくも説明ということでご意見いただきました。この計画の目標5の最後に書いてあるんですけども、市民の皆様の意識醸成というのを掲げさせていただいております。そこでも書いているとおり、公共交通の現状や課題に対する情報提供に、意見交換会の開催なりというようなアイデアも入れさせていただいておりますので、そこについては、「どういった現状だからこういうふうになっている」というあたりも含めて、一緒に説明して参りましょう。
議 長	<p>ぜひ住民の方々のご意見をよく伺って、そしてこの素案の中に取り込めるように、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>それでは、大変読みづらい点もあろうかと思いますが、パブリックコメント、この概要版をくっつけて皆さん方にご意見を求めるということで。なお、住民が分かりにくいようなことがありました場合には、それに対して、懇切に説明するということで、対応していくということで、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>このパブリックコメントに関しましては、よろしゅうございますか。ご承認いただけますでしょうか。</p>
議 長	<p>それではこのパブリックコメント、実施させていただきます。期間的には、先程申し上げましたように、1月26日から2月16日までの間に行うということでございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、きょうの皆さん方のお手元にあります議事次第によりますと、2の報告事項でございます。</p> <p>地域公共交通確保維持改善事業計画(案)につきまして、資料3を使って、事務局から説明をしていただきます。</p> <p>よろしくお願ひいたします。</p>
報告事項 地域公共交通確保維持改善事業評価(案)について（資料3）	
事務局	－資料3により説明－
議 長	<p>ありがとうございました。報告事項は以上でございますが、特にこの点については質問しておきたい、お聞きしたいというようなことはございますか。</p> <p>ございませんか。それでは、次に4のその他へ移ります。</p>

議 長 (つづき)	事務局から何かございますか。
4 その他	
事務局	<p>本日、机の上に、追加資料として置かせていただいておりますバスの社会実験ということで、チラシがあったと思うんですけども、広島市の方で行われる新規路線の試験運行に関するチラシです。バス会社が、利用者が減少傾向にあることからバスの活性化の一環として、広島港からアルパーク、イオンモールへの新規路線の試験運行を実施するというものでございます。運行期間につきましては、今週の土曜日1月23日から3月13日までとなっております。現在、広島市と江田島市は連携し、色々な取組を展開しております。今回、広島市の方から、「江田島市の皆さんにもぜひご利用していただきたい」ということがありましたので、この場を借りてご紹介をさせていただいております。皆様方には、ご協力いただきますとともに、航路を利用してお出かけしていただければと思います。</p> <p>それから、資料はございませんが、一つお知らせです。公共交通に関する講演会の開催を考えております。まだ具体的な内容は決まっておりますが、今のところ、3月20日の日曜日、春分の日を午後を予定しております。講演会では、「猫の駅長たま」のアイデアで有名な両備グループの小嶋代表さんにお越しいただいて、お話をいただきたいと思っております。追って連絡させていただきますので、ぜひお越しいただければと思います。</p> <p>それから、次回の会議について、お知らせいたします。今回の計画素案のパブリックコメントの結果を踏まえ、計画案についてご議論いただきたいと考えております。現在の予定では3月18日の金曜日午後1時15分から、場所はこの会場で開催したいと考えております。開催通知につきましては、別途お送りさせていただきますので、どうかよろしく願います。</p> <p>その他につきましては、以上3点でございます。</p>
議 長	ありがとうございます。皆さんの中で、これだけは申しおきたいというようなことがございましたら、ご意見賜りたいと思いますが、いかがでございましょうか。よろしゅうございますか。
委 員	その他でご説明いただきました新規のバス路線、広島港からアルパークとイオンモールへの社会実験のチラシというのを拝見しました。これは、今から江田島市民さんに配布される予定だという理解でよろしいでしょうか。
事務局	2月1日発行の広報えたじまに原稿を掲載します。その時点では、社会実験はスタートしていますけれども、内容を掲載することにしております。
委 員	その場合に例えばなんですが、広島・宇品の港に着いてからの時刻表は書いてあるんですが、これに至るまでの船、例えば、このバスに乗るとしたら、江田島市民の方が、どの船で出発すると接続していて、江田島からイオンモールに便利に行けることが分かるようにならないかなと思います。航路も複雑なので。一つとは限らないかもしれないんですが、船のダイヤと合わせて、何かPRすることは可能なんでしょうか。全部は難しくても、例えば、「朝の10時位に江田島を出発したら、11時半位にはもうお買い物ができる」みたいなことがイメー

平成27年度 第4回江田島市公共交通協議会（平成28年1月19日）

<p>委員 (つづき)</p>	<p>ジできる一例だけでもイラストと一緒に載せるとか。「こんなものがあるんだったら今度の日曜日に行ってみようかな」という気持ちになるような、何か情報みたいなものがあれば。このバス路線を機に、フェリーなり航路に乗られる方が、ちょっとでも増えるんじゃないかなと思いますので。何かそういった工夫が出来そうなら、ぜひお願いしたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>先程申し上げたとおり、広報の原稿につきましては、もう締め切りが来ておりますので、ちょっと難しいんですけども、ホームページへの掲載とか、それぞれの航路の方で、ポスターみたいなものも作ることができるかなと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>よろしゅうございますか。はい。他に何かご意見ございませんでしょうか。</p>
<p>5 閉 会</p>	
<p>議長</p>	<p>長時間、長々のご議論いただきまして、ありがとうございました。 次回3月18日ということですが、よろしく願いいたします。 本日はどうもご苦勞様でございました。</p>